

補助金対象に採択

先導的「低炭素・循環・自然共生」 地域創出事業 GPP(グリーンプランパートナーシップ)事業

「低炭素・循環・自然共生の統合的達成」の地域における具現化のための支援事業です。本エネルギーシステムについて、モデル性、先導性があり、大幅なCO₂削減効果が評価されました。

期間：2014～2016年度の3か年
対象：コージェネレーションシステム、
熱プラント、熱導管等

自立・分散型低炭素エネルギー社会 構築推進事業

再生可能エネルギー等を活用して、災害時等に自立的に電力を供給・消費できる低炭素なエネルギーシステム及びその制御技術等の技術実証の支援事業です。本事業が低炭素性及び災害時対応のできる、都市部普及型の先進システムとして評価されました。

期間：2014～2016年度の3か年
対象：CEMS、NAS電池、太陽光発電、
受変電設備、電気・情報のネットワーク等

サステナブル建築物等先導事業 (省CO₂先導型)

省CO₂の実現性に優れた住宅・建築プロジェクトに対する支援事業です。本事業における集合住宅を中心とした双方向参加型エネルギーマネジメントシステムが先導性があるとして評価されました。

事業者：三井不動産レジデンシャル、東邦ガス
期間：2017～2020年度の4か年
対象：家庭用燃料電池、HEMS、
電気・情報のネットワーク等

低炭素モデル地区事業に認定

本事業は、温室効果ガス排出量の大幅な削減を可能とした、魅力的なモデルとなる持続可能な未来のまちづくりであるとして、2014年度名古屋市の「低炭素モデル地区事業」第1号に認定されました。

低炭素モデル地区事業が示す3つの将来像

駅そば生活圏 駅に近い便利さ&快適さ

- 駅そば生活圏に多様な都市機能を集積
- 環境に配慮したゆとりと潤いのある暮らし

風水緑陰生活 緑と水と風に包まれて

- 周辺環境と調和した緑と水のネットワーク
- 水辺空間を活かした緑豊かな歩道の整備

低炭素「住」生活 日々の暮らしが低炭素に

- 歩行者・自転車空間整備による回遊性向上
- 環境学習・教育プログラムによる意識啓発

みなとアクルス エネルギーセンター

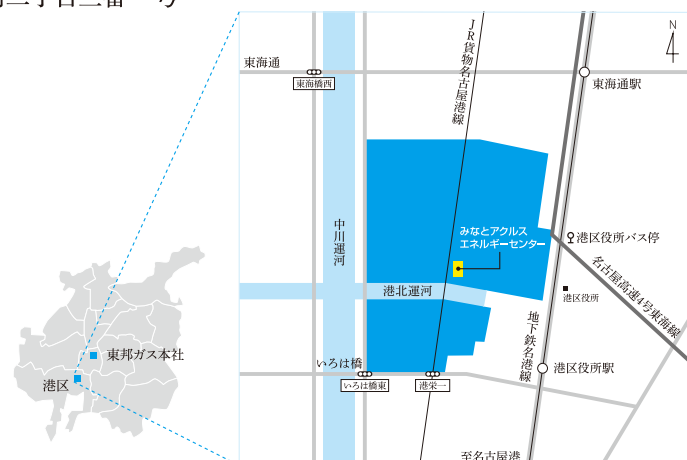
minato AQUULS Energy Center

スマートタウンの実現

～未来を拓くエネルギーがつくる 미래のまち～

スケジュール：2017年2月～ スポーツゾーンに電気供給開始
2017年4月～ スポーツゾーンに熱供給開始
2018年～ ららぽーとに電気・熱供給開始
第I期まちびらき

みなとアクルス エネルギーセンター
住所：名古屋市港区港明二丁目三番一号



〈お問い合わせ〉
東邦ガス株式会社
〒456-8511
名古屋市熱田区桜田町19-18
<http://minatoaquls.com>

みなとアクルのスマートエネルギーシステム

～総合エネルギー事業のモデル地区となるスマートタウン～

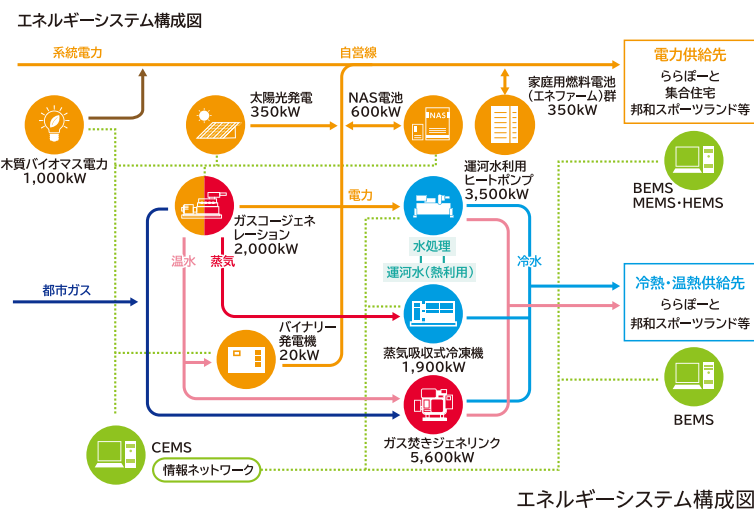
スマートタウンの実現に向けて、みなとアクルは、『人と環境と地域のつながりを育むまち』を開発コンセプトに、「環境と省エネの取り組みにより、総合エネルギー事業のモデルとなる先進的なまちづくり」の実現に取り組んでいます。

その中心が、スマートエネルギーシステム。

みなとアクルの中央に位置するエネルギーセンターに構築するシステムから、商業施設やスポーツ施設、住宅など様々な建物に、低炭素なエネルギーを賢く一括供給し続けます。

2013年3月の『東邦ガスグループビジョン』で掲げた総合エネルギー事業のビジネスモデルとして、みなとアクルで低炭素性・災害対応性を併存させる都市型モデルを具現化するとともに、他の地域への展開を進め、今後のまちづくりをリードします。

国内最高水準のエネルギー効率となるシステム構成により、省エネルギー率40%、CO₂削減率60%（ともに1990年比）を達成する見込みです。



みなとアクル エネルギーセンター

エネルギー需給を一括してコントロールする、みなとアクルの心臓部。



エネルギーセンター概要

構造：1階 鉄骨鉄筋コンクリート造、2～4階 鉄骨造
規模：延べ床面積 4,532.53㎡、4階建 高さ 27.07m
主な用途：1階 業務用厨房ショールーム「プロ厨房オイシス」
2～4階 エネルギープラント設置
屋上 津波避難スペース

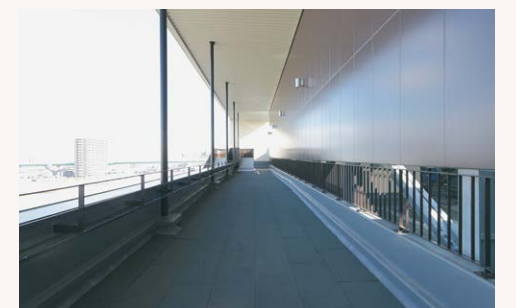
特徴

外観 自然をイメージさせるアースカラーを基調として、ららぽーとのにぎわいに呼応するランダムな濃淡色模様のデザインです。

外形 地区全体で一体的に調和した景観形成を図り、東側外壁を分割してオーバルウォークに沿って雁行させることでボリューム感を軽減しています。

構造 2～4階の重要なエネルギープラントを支える構造。通常の建物と比べて1.25倍の耐震性を確保しています。

災害対策 災害時にもエネルギー供給を継続するため、耐震設計や、津波対策・液状化対策を実施しました。



津波避難ビル（2018年9月認定）

